



## 高病原性鳥インフルエンザの発生が続いています！！

本年の家畜における高病原性鳥インフルエンザの発生は、過去最も早い10月28日の発生以降、1か月間で 12 道県19 事例が確認されており、過去最多52例の発生が確認された 2020-2021 年シーズンを上回るペースとなっています。加えて野鳥においても全国的に本病ウイルスの検出が続いており、全国的に 環境中のウイルス濃度が非常に高まっている状況と考えられます。

養鶏農家の方々におかれましては、飼養衛生管理基準の再確認を行うとともに、異常鶏を発見した際には 直ちに中央家畜保健衛生所まで通報していただくようお願いします。

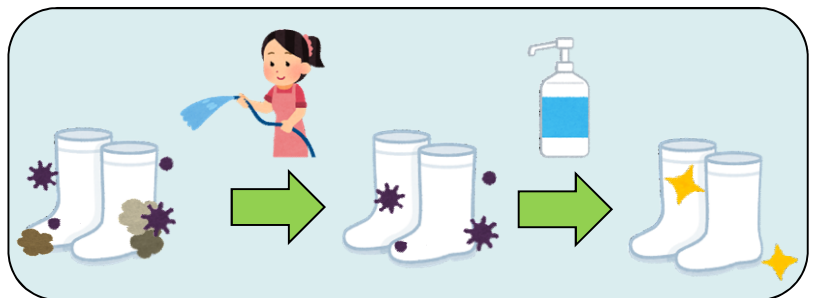
## 消毒薬の特性と使い方を確認しましょう

消毒の実施は農場でのバイオセキュリティの基本となり、飼養衛生管理基準においても重要な項目となります。消毒薬は温度が低いと効果が低下するため、冬季は注意が必要です。消毒薬には多くの種類がありますので、消毒効果を発揮させるには、消毒場所や器具に合うものを選び、適切に使用することが大切です。

### 消毒を行う際に注意する項目

#### 1 消毒前の洗浄

**有機物（糞便、血液、泥）**の存在下では消毒効果が低下します。長靴や畜舎等の消毒を実施する際には、消毒薬を使用する前に水洗等を行い有機物を除去することが大切です。



#### 2 外気温の影響

**外気温が低いと消毒効果が低下**します。外気温が低い日に消毒薬を希釈する際には、水の代わりに温水（30℃程度）を用いることで消毒効果を維持することができます。

### 逆性石けん（500倍希釈）の場合

低病原性鳥インフルエンザウイルスを1000分の1以下まで不活化するのにかかる時間



### 3 適切な希釈濃度の確認

消毒薬には、消毒する対象物により適正な希釈濃度が定められているため、消毒薬の側面等に記載されている使用方法を確認しましょう。また、希釈後は均一な濃度にするため十分攪拌することが大切です。

### 4 休薬期間の遵守

畜体等に使用可能な消毒薬には、休薬期間が定められているものがあります。畜体に消毒薬が付着した場合や飲水消毒として使用した際には、一定期間と畜できないため、使用時期に十分注意する必要があります。

## 年末年始の死亡牛レンドリング処理及びBSE検査の対応について

熊本蛋白ミール公社及びBSE検査所の年末年始の対応については、下表のとおりです。飼養する牛が死亡したら、熊本蛋白ミール公社へ搬入時間の連絡をお願いします。

月	火	水	木	金	土	日
12/26	27	28	29	30	31	1/1
業務	業務	業務	業務	業務	休業	休業
2	3	4	5	6	7	8
休業	休業	業務	業務	業務	業務 (午前のみ)	休業

(株)熊本蛋白ミール公社  
TEL：0968-26-3766

※1月4日（火）から通常業務です。

搬入時間 午前8：30～11：30 午後1：00～3：00（時間厳守）

## 近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	韓国	肉用アヒル（8件）	令和4年11月3日～令和4年11月28日
			種アヒル（3件）	令和4年11月9日～令和4年11月17日
			肉用鶏	令和4年11月4日
			肉用種鶏（2件）	令和4年11月15日、令和4年11月16日
			採卵鶏（7件）	令和4年11月5日～令和4年11月28日
			ウズラ	令和4年11月8日
			観賞用鳥類	令和4年11月26日
	H5	韓国	肉用アヒル	令和4年11月29日

令和4年(2022年)11月30日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう！

